

「日中緑化交流基金事業」での多彩な出会いと暖かい心

広島県日中親善協会
事務局長 岡本敏秀

四川省攀枝花市旱熱河谷改造緑化造林モデル事業



平成27年11月3日第29回広島県日中親善協会訪中団（加藤会長を含む13名）は、成功裡に終えた広島県・四川省友好提携締結30周年の翌年、継続的に事業をしていくため四川省で記念植樹を実施した。

成都市から西南へ飛行機を利用して約1時間、1900mの高地にある飛行

パネルを使って現地説明

場に到着後、バスを利用して更に1時間下山、11月初めにしては暖かく、気温22度、暑

くて汗がにじむ晴れの中、ようやく攀枝花市旱熱河谷改造緑化造林モデル事業の現地へ到着した。ここは昨年からの植林を実施している地域で、地元の人民政府や造林局、人民対外友好協会など関係者や地域の方々約50名に温かく出迎えていただいた。記念植樹に先だって、旱熱化の進んでいる地域の植林状況をパネルにより丁寧な説明をいただいた。

当地は、金沙江下流域の谷あいの急峻な地域で、雨が少なく乾燥したところで数年前までは村人は貧しい暮らしを強いられていた。そこで、新しい取り組みとして、まず堤を作り、土を入れ、次に植林をする工程により始めたものの財政負担も大きく困っていた。このような状況の中、旱熱河谷改造緑化造林モデル事業による援助により植林をすることが出来、環境改善や生活の向上が図られ非常に喜んでいと説明された。その後、植林地の横どなりで記念式典を行った。その中で代表者の挨拶では、「攀枝花市のこのあたりは急峻な地で7月・8月以外は雨が少なく樹を植え、育てるのが難しいが山の緑を創生したい。このため日中緑化交流基金を活用した植



日中ともに汗を流して植樹

林により緑の山河を少しずつ取り戻し、環境改善が図られ友好のシンボルだ」と感謝の意が表された。その後記念碑の除幕式を日中共同で行い友好の印として木綿の苗木を関係者全員で力を合わせて植林した。人民政府主催の歓迎会では「この植林は成果を上げているのでぜひ事業を継続してい

ただきたい。そして今後とも一層の交流により友好の絆を深めていきたい」と挨拶があった。



記念式典で挨拶

このように、「日中緑化交流基金事業」では、緑化事業は着実に推進されており、加えての多彩な出会いと温かい心を通じて日中間の相互理解と絆が益々強くなって来ていると感じている。今後とも、この事業の継続を願っている。